

## 令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	造血幹細胞エイジングを規定するエピジェネティック機構の統合的理解
研究代表者	岩間 厚志 (東京大学・医科学研究所・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、最新のシングルセルレベルのエピゲノム解析技術を用いて、加齢による造血幹細胞とニッチ細胞の特性の変化を解析し、加齢造血幹細胞の機能低下を統合的に理解するとともに、加齢に伴って増加する骨髄球系腫瘍発症の基盤となる加齢造血幹細胞のエピゲノム要因を明らかにし、新規治療法の創出を目指す研究である。</p> <p>加齢に伴う造血幹細胞及びニッチ細胞並びに骨髄球系腫瘍発症の基盤となる加齢造血幹細胞のエピゲノム要因を解明することの学術的意義は高く、エピジェネティック阻害剤等を用いて加齢造血幹細胞の再活性化や形質転換を回避する方法が見つかれば、新たな治療法の創出につながるものと期待される。</p>